

2015年10月23日

萩ジオパーク推協だより

No. 5

〒758-8555 山口県萩市大字江向510

TEL : 0838-21-7765

e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp

HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/12>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

火山のでき方、大地のでき方を学んだ「子ども火山体験隊」(むつみ地域)

10月18日(日)、元山口大学教授の永尾隆志先生を講師に迎え、「子ども火山体験隊」をむつみ地域で開催しました。今回は、小学生4名、高校生1名、「大きな子ども」13名が参加。はじめに、普段は立ち入ることができないむつみ演習場を訪れ、阿武火山群の火山の1つ「東台」を見学しました。東台は、全体が平らな台地で、子どもたちが「普通」に考える火山の形とは異なる形をしています。しかし、火山であることは、溶岩を観察するとわかります。その溶岩も、比較的粘りけの強いマグマが固まってできたものを、実際に観察することができました。

次に、東台の台上にある天王山に行きました。そこは小高くなっていて、細長い形をした丘ですが、尾根に沿ってマグマの通り道(火道)が観られ、おそらく東台で最後にあった「割れ目噴火」の跡と考えられています。永尾先生からは、東台は割れ目噴火によって作られたため、溶岩台地(マグマの性質の割には平たい地形)になったという説明がありました。天王山の上に立つと広く眺望が開け、阿武火山群の山々や津和野の青野山など、いろいろな火山地形を観ることができました。

午後からは、高俣公民館に会場を移し、歯科用印象材をマグマに見立て、粘り気を変えながら火山のでき方を学びました。今回は、少し理解に難しい内容が含まれていました。でも、子どもたちは最後まで熱心に取り組んでいました。



(熱心に説明を聞く参加者)



(印象材を使って火山づくり)

第2回ジオパーク講座

10/8(木): 須佐公民館

10/9(金) 萩博物館

『ジオパーク=地球・人・文化～認定に向けて何をすべきか?～』

推進協議会では萩ジオパーク構想の日本ジオパーク認定に向けて、去る10月8日(木)・9日(金)の両日、須佐公民館と萩博物館を会場に、第2回ジオパーク講座を開催しました。今回のテーマは、「ジオパーク=地球・人・文化～認定に向けて何をすべきか?～」とし、講師は徳山大学准教授の柚洞一央先生でした。多くの市民の方が熱心に聴講し、ジオパーク認定への取組や考え方を学びました。

話の内容をいくつか挙げると、①なぜ、ジオパークに取り組むのか? 地震や火山活動などが活発な日本の自然の特徴を踏まえ、「自然の一部としての人」「自然に生かされている私たち」という意識をもつことも目的の1つ。②ジオパークは「地質」だけを対象とするのではない。自分たちの言葉で『ジオパーク=地球・人・文化』を説明できること、アピールできることが大切。③ジオパークの学びを学校教育に取り入れることが求められるが、さらにジオツーリズムに結びつけることも視野に入れること。④審査はテーマとストーリーの妥当性が求められ、また持続的に活動ができる体制の確保が重視されること。こうしたことを推進していくためには、行政・研究機関や研究者・地域住民等のつながりが、とても重要であることを強調されました。



(各地の事例を説明する柚洞講師)

子どもたちに萩のジオパーク構想を伝える前に…、

先生方も学んでいます！ 萩市教育委員会・萩阿武中教研理科部

10月3日（土）、中村哲夫教育長ほか萩市教育委員会学校教育課の先生方と一緒に、萩のジオサイト候補地を巡りました。「教育の場でジオパークの取組を進めていくために、是非見ておきたい」とのこと。「龍が通った道」を中心に、駆け足での巡検でした。はじめに立ち寄った紫福・西見山八幡宮では、神社の方が真新しい説明看板を設置されており、そこには、ありがたいことに「萩ジオパーク構想の文字が！（誤った「玄武岩」の表記は、後日訂正をお願いしました）。畳ヶ淵や宇生賀盆地、須佐・高山山頂などで、参加者からは「こんな所があるとは知らなかった。是非、教材としての活用を」との感想が出ました。

また、10月8日（木）には、萩阿武中教研理科部会の先生方が、萩ジオパーク構想推進協議会支援員の樋口尚樹さんを講師に、「萩城下町の石材の使われ方」を萩市堀内で学びました。これは中学校理科の教科書に「大谷石の行方」という科学コラムが掲載されており、萩での身近な石材（土堀・



(江戸期の整然とした石積みと明治以降の石積み)



(神社自作によるジオガイドを示す看板)



石垣・灯籠など)とその成り立ちを学ぶ教材化の一助になるのでは、という視点からです。笠山石、指月石、須佐の砂岩や旭の凝灰岩、紫福の鍋山石など、是非地元の素材を教材に取り入れてほしいと思います。

萩ジオパーク構想「龍が通った道」パネル展示（於：弥富そばの花まつり）

10月4日（日）、弥富グラウンドで『第17回弥富そばの花まつり』が開催されました。ジオ推協では「龍が通った道」のパネル展示を行いました。伊良尾火山の「龍が通った道」のジオストーリーに関心をもっていただき、畳ヶ淵の美しく、不思議な柱状節理の写真を見て、「是非行ってみたい」という声も多く聞きました。帰路に立ち寄られた方も多かったようです。「ジオの恵み、の弥富そばを食べて、ジオの見どころである畳ヶ淵、猿屋の滝、龍麟郷を紹介することができました。地域の自然に親しみ、その成り立ちを学び楽しむ場所＝ジオパークそのものでした。（ジオサイトの紹介パネルを見る参加者）



11月の予定

○萩ジオ紹介ビデオ制作ロケ 11月6日（金）～11日（水）

ロケ場所：見島外（予定）、主管：萩ジオ推進室

○見島ウォーク 11月7日（土）8:30～16:00、主催：見島小中学校、後援：萩ジオ推進室、対象：保護者・島民

○笠山と指月山の地形と動植物観察会 11月15日（日）、集合場所・時間：9:30 笠山虎ヶ崎駐車場、対象：山口市生物学会会員及び一般、申し込み：kmashino@js4.so-net.ne.jp 主催：山口市生物学会 後援：萩ジオ推進室

○ふるさとまつり出展「萩ジオパーク構想紹介」 11月14日（土）・15日（日） 場所：中央公園（ステージ南側特設ブース） どうぞお立ち寄りください。